

長野県総会に出席して（１）

猛暑です(+o+)

皆さん体調はいかがですか？

雨が降って少し肌寒かった２３日（土）岡谷での総会に行ってきました。
北信支部からは、２８人が出席。バス利用は２５人、にぎやかで楽しかったですよ～。

総会では、開会・会長あいさつの後、永年在籍の方や役員等をされ会に貢献された方々が表彰されました。

私は入会が遅かったので、２０年表彰は無理かも…

諸先輩を見習って頑張りたいな～と思います。

議事報告では、２９年度目標「変革に対応できるパワーの醸成を目指して」の達成に向けた事業展開を報告していただきました。

- ・新研修「災害ボライティア基礎研修」をはじめとした各研修の実施状況。
- ・「会と会員がつながっているか」「支部、ブロックの役員の使命」の検証を行い、入会キャンペーン・ワークショップの実施で、組織強化に努めたこと。

以上を踏まえて、研修を基本に「大変な時だからこそ励まし合える」「情報交換をしてお互いに学び合える」仲間づくりをし、つながりあえる介護福祉士会にするという想いを確認しました。

事務長からの決算報告では、

- ・「講師派遣事業収益」の減収（－９４６，３９３）の原因について質問があり、「県からの補助事務費の減少」「社協への講師派遣がなくなった事」が理由として説明されました。
- ・また、「研修会館建設積立資産」について初代・２代両会長からご意見がありました。現在積立金 ９１，３９８，１３２ 円だが目標は２億円であり「いつ貯まるのか？」「時代が変わり、今、建設する意味はあるのか？」「違う用途、例えば認知症カフェのような地域に密着したものを各地に配備するとかに使うことはできないか？」など、早急な対策をするよう提案されました。

時代の変化に合った介護福祉士のあり方を、会員全員で考えていかなければ…

皆さん、よろしくお願ひします。

長野県総会に出席して（２）

さて、後半の講演会

「地域共生社会と介護福祉士への期待」

講師は野沢 和弘さん…毎日新聞社 論説委員。新聞の社説を書いている方ですね。障害者であるお子さんを持ち、当事者の立場で社会保障を考えていらっしゃいます。

少子高齢化社会で「誰が福祉を担うのか？」という問題で1家族の平均構成人数が2.46人（東京では1.99人）の現在、大家族→核家族→孤族・個族と家族が小さくなっていき、家族では担いきれない現状を説明されました。

「親に対する子供の、子供に対する親の負担」が大きすぎると…確かにうなずけますね。

また、「認知症800万人時代」「ホームレスの平均年齢59歳」「ホームレスの13%が70歳以上」「東京では高齢者の4割が借家住まい」との現状を受け、公的福祉の拡充（量と質）の必要性を訴え「孤立感・疎外感に手が届いているのか？」と疑問を呈されました。

どの話も身につまされる事ばかり…

特に「なぜ特殊詐欺の被害にあってしまうのか？」の中で話された

- ・「嘘でもいいから子・孫を守った実感がほしい」という高齢者の心理
- ・犯人側の方の情報量が圧倒的に多い（公的福祉側は負けている）

この2点は「なるほど～」と感心してしまいました。

犯人側の人的育成も徹底しているそうですよ。

これからの地域共生社会のキーワードは「我が事・丸ごと」

- ・身近な地域ごとに生活課題を発見・解決する…我が事
- ・1人の専門家・1つの福祉事業所が高齢者から障がい者、子供まで福祉サービスを提供できる…丸ごと。介護福祉士も専門職として期待されています。

問題は山積みで明るい話ばかりではありませんでしたが、素敵な話術と挿入される雑談（実話）で楽しく拝聴しました。

また、販売されていた著書も面白いのですが、講演中に紹介された漫画「傘寿まり子」さっそく読んでみました…LINEのアプリで（笑）面白いですよ。

以上、長くなりましたがレポートしてみました。来年はもっとたくさんの会員が参加できると嬉しいです。

